

楓の森アップデート

学校教育目標：夢を持ち 自ら考え よりよく行動できる児童の育成



合志市立合志楓の森小学校
学校だより 第7号

令和5年(2023年)8月28日
文責 校長 佐藤 政臣



保護者の皆様には、8月26日(土)の愛校作業に、早朝からご参加いただきまして誠にありがとうございました。大量の雑草を除草することができ、おかげさまで、きれいになった学校で前期の後半をスタートすることができましたことに、感謝申し上げます。

さて、夏休みの子もたちの様子はいかがでしたでしょうか。夏休みを利用して、様々な経験ができたことだと思います。

また、夏休みは、学校に登校することもなかったので、集団生活のルールや時間に縛られることもありませんでした。しかし、今日から前期の後半がスタートしました。気持ちを切り替えていきましょう。

自分だけのことから卒業させる ～ 夏休みの自分を見直そう ～

学校では、登校すると、「あいさつ」に始まり、靴をそろえて靴箱に入れます。次に、授業では、個人でじっくり考えることもあります。ペアやグループで議論することもあります。また、給食や掃除の時間もあり、それらは共同作業で準備から後片付け等を行うこととなります。

このように学校は、ルールの遵守や友達や教師と共に学習したり、作業したりすることが多くなるので、相手意識が必要になります。

相手に気を向けること(気がきくこと)は、社会を生き抜く上で大変重要な社会的スキルになります。集団の中で自分勝手に振舞っていたら、集団生活はできません。

ですから、「自分だけのこと」から卒業させる必要があるのです。幼児に「奉仕」の心がないのは当然です。自分のことだけで精一杯だからです。

では、歳を重ねていくと奉仕の心が自然に身につくかというそうではないのです。

意図的に指導しないと育ちません。

放置しておけば、高学年になってもエゴの塊になります。例えば、学校では、このような場面がみられます。

先生：「そこにゴミが落ちているよ。」

児童A：「ぼくではありません」

先生：「学級文庫がぐちゃぐちゃだな。」

児童B：「私はちゃんと片付けました。」



このように答えてしまうことがよくないのは、自分の責任ではないという考え方です。確かにそうかもしれませんが、学級は自分の生活の場ですから、「自分のことだ」という認識を持たせたいです。自分に直接的に利害関係がないことは「自分には関係ない」という利己心を克服させたいです。

- ・ゴミが落ちていたら自分で拾う。
- ・片付いていなかったら自分が片付ける。

このような心を育てたいです。

そこで、前期後半開始集会では、「ウメボシマン」のお話をしました。(以下は、講話の抜粋です。)

後期後半開始集会での校長講話「ウメボシマンの話」

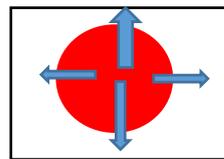
参考文献：道徳の話(叡知出版社)

さて、問題です。「教室にゴミが落ちていました。そこで、先生が『そこにゴミが落ちているよ。』といいました。あなたはどうか答える？」

ある子は、「私ではありません。」といいました。

その答えは正しいですか？教室は汚いままになりますよ。気づいても自分のせいではないからといって「自分のこと」しかエネルギーが注げないというのは、心がウメボシのように小さい。だからそういう人のことを「ウメボシマン」と名づけます。(笑)

成長とは、自分のことだけでなく段々周りにもエネルギーが注げるようになること。



左の図のように周りにもエネルギーが注げるようになると、ウメボシがイチゴ、リンゴ、スイカというように大きくなっていきます。(評価基準：イチゴ：隣の子、親友まで。リンゴ：グループや学級全体まで。スイカ：学校全体) このように心が広がっていくことが成長です。最初はみんな「ウメボシマン」だけど少しずつ大きくしてウメボシマンから変身しよう。

周囲にエネルギーを注ぐ子が多くなると学校は美しくなります。また、相関的に児童間のトラブルが少なくなる傾向があるそうです。

学校行事や子どもたちの学習の様子につきましては、毎日ホームページを更新していますので、ご覧下さい
<https://es.higo.ed.jp/kaedenomori/>



楓の森小 HP